

<セミナーのご案内>

● 今回配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回				
覧				

高等教育活性化シリーズ 134 (通算 407 回)

2008 年 12 月 16 日 (火)

初年次教育・体験のキメ手

“学士力”育成の場としての新・学生寮生活

～自己学習・社会性・国際性あるライフスタイルの習得～

- ※ 大学と地域の 2 つのコミュニティ再生 P / 公団住宅への学生入居～多世代共住・多文化共生事業
- ※ [昭和大] 初年次全人教育 / 四学部横断全寮制生活 / 運営の体制と実際 / 2 年次への接続
- ※ [豊田工大] 新入生・上級生・教職員の三位一体プログラム / 寮生会・アドバイザー制度 / 27 年の実績
- ※ [APU] 国際大学としての明暗を握るハウス / 寮運営とコスト / 成果と今後

● 講師陣 ●

山本 孝則 氏 / 大東文化大学環境創造学部教授、高島平再生プロジェクト委員会座長
片桐 敬 氏 / 昭和大学理事・富士吉田教育部長
斉藤 満 氏 / 豊田工業大学工学部教授・全寮制教育プロジェクトリーダー
横山 研治 氏 / 立命館アジア太平洋大学学生部長・アジア太平洋マネジメント学部教授

2008 年 12 月 16 日 (火) 剛堂会館ビル 会議室 (東京・麹町)

地域科学研究会
高等教育情報センター

日 時：2008 年 12 月 16 日 (火) 10:00～16:40

会 場：剛堂会館ビル (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町)
千代田区紀尾井町 3-27 03-3234-7362

アクセス：東京メトロ有楽町線「麹町駅」1 番出口より
徒歩 4 分、JR 中央・総武線「四ツ谷駅」麹町口
から徒歩 10 分

※会場の地図及び受講証を送付しますので
必ずご確認ください。

参加費：A. ご一名 (資料代込)

42,000 円 (消費税込)

B. メディア参加 (資料・カセットテープ送付)

43,000 円 (送料、消費税込)

※参加費の払い戻しは致しませんので、申し込まれた方
の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。

申込方法：参加申込書に所要事項を記入のうえ

FAX または E-mail にてご送付ください。

支払方法：銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880

三菱東京 UFJ 銀行神田支店 普通 5829767

三井住友銀行麹町支店 普通 7411658

郵便振替 00110-8-81660

全ての口座名 < (株) 地域科学研究会 >

※ご請求なき場合は振込受領書を領収書に
代えさせていただきます。

申 込 先：地域科学研究会・高等教育情報センター

東京都千代田区一番町 6-4 ライオンズ第 2-106

Tel: 03 (3234) 1231 / Fax: 03 (3234) 4993

E-mail: kkj@chiikikagaku-k.co.jp

URL: http://www.chiikikagaku-k.co.jp/

☆ FD・SD 及び BD 研修の本格化に伴い、2007 年から受講・修了証明書を発行しております。

キリトリ線 (※参加申込みの折は必ずお送りください)

研究会参加申込書

高等教育活性化シリーズ 134

2008 年 月 日

“学士力”育成の場としての新・学生寮生活

☐ 当日参加

☐ メディア参加

勤務先

所在地 〒

TEL

FAX

連絡部課・担当者

参加者氏名

所属部課役職名

メールアドレス

<通信欄> 支払方法 (郵便振替・当日払い・銀行振込) 必要書類 ☐ 請求書 ☐ 見積書

※この個人情報、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講 義 項 目
10:00 ～ 11:20	□ 高島平再生プロジェクトと大学教育改革 ～大学・地域連携事業の最先端～ 大東文化大学 山本 孝則 1. なぜ高島平なのか？ (1) 団地を中心とした大学 ― 地域社会連携 (2) 団地と大学の関係を「かけ算の関係」(シナジー効果)にする (3) 大学によるまちづくり：大学自身が生まれ変わる 2. 高島平再生プロジェクト(高 P)の新機軸 ― 概要 (1) 高 P の柱：多世代共生・多文化共生 (2) カフェサンク (3) 広がる人の輪：高島平に集う人々 3. GP 取得から産まれた高 P のアボリア (1) 高 P の原理と GP の原理 (2) 解決策は大学のガバナンスの確立 4. 21 世紀初頭の大学像 ― 地域社会の「明日にかけける橋」 (1) 大学教育の自己変革としての高 P (2) 大東文化の経験を中間総括する (3) 個別大学の地域連携から「地域を支える大学の連合」へ 〈質疑応答〉
11:30 ～ 12:50	□ 〔昭和大学〕初年次全寮制教育による全人教育の実践 ～四学部横断全寮制生活によるチーム医療への基盤づくり／ 一部屋 4 人によるコミュニケーション能力の養成～ 昭和大学 片桐 敬 1. 昭和大学の歴史と教育体制・教育施設 (1) 医系総合大学としての昭和大学の構造～医・歯・薬・保健医療学部 (2) 初年次教育と全寮制 (3) 2 年次以後の教育体制～旗の台キャンパス、横浜キャンパス 2. 富士吉田キャンパスと寮制 (1) 全寮制をとるに至った経緯 (2) 全寮制運営の実際～1 部屋 4 名の学部横断入室、食事、学習体制など (3) 指導担任制・合同委員会 (4) 寮監 3. 昭和大学における初年次全人教育 (1) ヒューマニズム・コミュニケーションスキルとカリキュラム改革 (2) PBL チュートリアル教育 (3) 早期体験実習、医療人入門など (4) 専門教育の導入とクサビ型カリキュラム 4. その他 (1) 国際交流～ポートランド州立大学、フライブルグ大学等への夏季研修と旅費・滞在費の援助 (2) ファカルティ・ディベロップメントの奨励～教育推進室の設置 (3) 2 年次教育とのつながり～学部兼務教授制の設置 〈質疑応答〉
13:50 ～ 15:10	□ 〔豊田工業大〕一年次全寮制プログラムによる基礎人間力育成 ～新入生、上級生、教職員の三位一体による取り組み～ 豊田工業大学 斉藤 満 1. 一年次全寮制制度導入の背景 (1) 本学設立の趣旨と教育理念 (2) 全寮制導入時の社会背景 2. 全寮制制度 27 年間の実践から学ぶもの (1) 全寮制に及ぼす社会の変化と入学学生の変化 (2) 全寮制制度と大学カリキュラム改革・FD 活動 3. 全寮制制度に関わる管理運営体制とコスト 4. 新しい一年次全寮制教育プログラムの取り組み (1) 取り組みの背景：必要性の共通認識 (2) 具体的な取り組み (3) 実施の現況と評価 5. まとめ (1) 取り組みから学ぶこと (2) 今後の展開に向けた課題 〈質疑応答〉
15:20 ～ 16:40	□ 〔APU〕国際大学としての明暗を握る学生寮 ～国際教育寮 AP ハウスの実際とマネジメント体制～ 立命館アジア太平洋大学 横山 研治 1. AP ハウスについて (1) 大学の教育理念と寮の位置づけ (2) 1 棟から 5 棟への増築 (3) 寮運営と寮費の問題 (4) アドミニストレーションのハウス内オフィスと管理会社との連携 2. AP ハウスの暮らし (1) レジデント・アシスタント(RA)の役割と苦労 (2) ハウスがなければ国際大学はない (3) 学部生と大学院生の生活 (4) 日本社会への適応とハウスの役割 3. AP ハウスの生み出したもの (1) 教学とハウスとの連携 (2) 家族愛の醸成と志 (3) 相互教授的学習環境の発展 (4) 問題発見能力と問題解決能力 4. AP ハウスの今後の課題 (1) 多様な間取りの準備 (2) 男女混住か完全分離か (3) 全寮制への取り組み 〈質疑応答〉